

第1回 六甲山系芦屋市地域学習ゾーン検討委員会

議 事 要 旨

1. 開催日時：平成19年10月11日(木) 10:00～12:00
2. 開催場所：芦屋市役所 北館4階 教育委員会室
3. 出席者：

【委員】

岩本 昌三	元芦屋市美術博物館副館長	郷土史
後藤 宏二	六甲砂防事務所長	
寺田 緑	芦屋市PTA協議会会長	
藤原 周三	芦屋市教育長（代理：川崎 正年次長）	
古市 景一	芦屋市環境づくり推進会議委員、元芦屋市中学校理科教員	生態学
宮田 隆夫	神戸大学大学院理学部教授	構造地質学

【事務局】

六甲砂防事務所	諸留副所長、石尾課長、西山技術員、金丸技術員
株式会社エイトコンサルタント	伊藤、田中、見掛、松島、苦瓜、角崎

4. 配付資料

- 議事次第
- 第1回懇談会資料（資料①～⑤）
- 参考資料（学習要素の整理・冊子（案）「みんなで語り、伝えよう！住吉川物語」）
- 追加資料（話題要素、出典先一覧）

5. 議 事

1. 事務所長あいさつ	・六甲砂防事務所 後藤所長あいさつ
2. 委員紹介	・事務局による説明（資料①）
3. 委員会設立趣旨、規約（委員長の選任）	・事務局による説明（資料②）
4. モデル地域での取り組みについて	・事務局による説明（参考資料）
5. 本委員会での検討内容などについて	・事務局による説明（資料③）
6. 芦屋市地域の特性等について	・事務局による説明（資料④、⑤、追加資料）
7. 意見交換	
8. その他	
8. 閉会	・六甲砂防事務所 後藤所長あいさつ

<議 事>

●資料①、②、参考資料 事務局説明

●質疑応答

(後藤事務所長)

- ・住吉川の事例は現在、小学校や中学校で活用され始めたところであり、反省点としては、難しい漢字にはルビを振ったが、用語自体が難しいとの指摘があり、小学校の先生にチェックをして頂き、読み易く、わかり易いものに再編中である。
- ・今回、作成する冊子やマップについては、去年の反省点を踏まえて作成する。

(宮田委員長)

- ・芦屋市の特徴を教えられるようなものにし、住吉川とは一味違った観点からも考えていきたい。

(事務局)

- ・冊子やマップ、サブノートの使い方として、マップは今回の取り組みをPRするためにも、色々な場所に置く予定である。
- ・また、冊子については、小中学校の教員を対象に、サブノートについては、小学生を中心とした活用を考えており、小中学校に配布し学習に役立ててもらおう。

(後藤事務所長)

- ・当初はホームページからのダウンロードだけを想定していたが、印刷物も用意することになった。

(宮田委員長)

- ・インターネットから冊子やマップなどのダウンロード際の不便さや、見学コースで目的地までの散策路の危険箇所に対する意見がある。

(古市委員)

- ・この趣意には賛成だが、反面、散策路などを整備することによって人が入りやすくなり自然破壊につながる恐れもある。
- ・今まで事前調査が不十分だったため、壊れた自然も多々ある。これまでに絶滅した植物種を10種以上見てきている。

(事務局)

- ・住吉川では、先ずまち中に残る歴史を知ることから始め、次に山の中に関心を持たせる順で考えおり、危険な箇所については簡易的な整備を想定している。大々的な整備によって自然破壊を招く危険は少ないと考えている。

(後藤事務所長)

- ・この10年間で植物が絶滅した事実を知らせることも大事ではないかと思う。

(岩本委員)

- ・湿地のミズゴケ類などのコケ類は、踏み荒らしや盗掘などの外圧により絶滅しやすいので、模型を展示すると言った対応もしているところである。

(宮田委員長)

- ・化石も同様で、知らせると業者が殆んど持ち去ってしまうこともある。
- ・また、六甲へ入る登山口に、採取してはだめな植物などを示すものを設置するなどしてはどうか。

(古市委員)

- ・地域を知ることには賛成だが、反面、情報を公開することで自然が荒らされる危険性があり、貴重な植物が絶滅してしまう恐れもあるので十分な配慮が必要である。
- ・砂防ダムを建設する際に、事前に地域の専門家に知らせ、貴重な植物の保護について相談してもらいたい。

≪スケジュールについて 異論なし≫

●資料③～⑤ 事務局説明

●意見交換

(古市委員)

- ・フカ切岩の下に 10m 程度の立派な滝があり、勝手に弁天岩と名づけている。
- ・阿保親王塚にはウバメガシの純林があり、明石の天然記念物よりも立派なものと考えている。岩園天神にも立派な社寺林が残っており、樹齢 300 年くらいと思われる。
- ・イモリ池の近くにイモリ池湿地というところがあり、保護を目的として兵庫県が展示施設を設けた。

(岩本委員)

- ・芦屋といえばマツのある風景が馴染みで、マツを伐採し災害に利用したり、植樹し大切に育苗したりした時代があり、マツとともに暮らしてきた歴史がある。
- ・また、芦屋は住宅地としてのイメージが強いが、和洋折衷の住宅が起伏に富んだ地形の地域に出来た歴史を冊子に盛り込めたら良いと思う。
- ・転入・転出が激しい地域であり、芦屋のことを知らない人に対して、こうした情報は大変役立つ。

●資料の説明 川崎委員

提供資料 「芦屋の古代史」「芦屋川が育んだ歴史探訪」「大阪城石垣のふるさとを歩く」

「芦屋の遺跡シリーズ①、②」「あしやの子ども風土記 全 10 集」「芦屋市史、資料編」

(事務局)

- ・芦屋市が作成した本等については、大いに参考になるので、素材として整理して、冊子に盛り込んでいきたい。また、見せ方については、わかり易いよう工夫していきたい。

(寺田委員)

- ・「わたしたちのまち 芦屋」は小学校 3 年生の副読本として配布されており、災害のことや猿丸安時のことなども載っているが、自然のことは余り載っていない。
- ・保護者の立場からは、芦屋の住環境に意識が偏りがちだが、次世代を育てる世代としては、自然に目を向けさせると言ったことの大切さを痛感する。

(古市委員)

- ・芦屋川については、公民館の親子講座などで紹介しており、開森橋の辺りは、ツルヨシが繁茂しているが、魚類や植物なども豊かで楽しい場所で、子どもたちの自然観察ゾーンとして利用している。

(宮田委員長)

- ・学校教育では、自然観察ゾーンがある山の高いところへ児童・生徒を連れて行くことはあるのか。

(寺田委員)

- ・遠足で、お多福山等へ行くことはあるが、個々人の体力差の問題もあって、山歩きまではやっていない。
- ・主人が子どもを連れて六甲山へ山歩きに行くうちに、子どもも興味を持って来ているようだが、学校教育の場では、山に入り自然観察を行うのは難しいと思う。
- ・総合学習の時間についても近年の体力低下が影響しているのか、近場で済ませていることが多い。
- ・また、国際的な学習をしていることが多く、身近な自然についても取り入れてもらいたいと思う。

(岩本委員)

- ・六甲山には砂防ダムが 500 基余りもあると聞かすが、ハイカーはその必要性や効果を知らないことが多いので、砂防ダムのことについて解説して欲しい。
- ・シェール道や徳川道などには面白いエピソードがある。
- ・また、芦屋市の行政界が何故、現在の形になったかは、約 200 年前に遡る入会権に起因しており、

それを知らせるものが芦屋神社にあったが、先の震災で消失した。

- ・芦屋は、六甲山の恩恵を受けているが災害も多く水や山にまつわる伝説や物語が多い。昔の暮らしぶりや悲しみ、楽しみを語る民話が 20 ぐらいある。その 1 つにドビ割という水飢饉が起きたときの痛み分けの話がある。
- ・地名や民話から芦屋の歴史や自然を知ることできる。こうした民話などが「あしや子ども風土記」にまとめてある。

(事務局)

- ・紹介していただいた資料等には、様々な情報があるが、これらを焼きなおすのではなく、良いエッセンスだけを取り出して、冊子にまとめたい。

(川崎委員)

- ・芦屋市史については、市政 70 周年になるので平成 22 年度を目指して新しいものを編修中であり、現在は昭和 45 年のものがある。

(岩本委員)

- ・芦屋市史には、資料編があり、そこには様々な歴史を詳しく紹介している。

(後藤事務所長)

- ・住吉川の時と同様に芦屋川の砂防ダムについても歴史や役割などについて紹介していく。

(事務局)

- ・会下山遺跡については国有地化し、グリーンベルト事業と一体的に整備できるのではないかと考えている。

(岩本委員)

- ・会下山遺跡の周辺には、カエル岩にまつわる民話が残っている。また、会下山遺跡に関する模型や看板を作ったが、ハイカーのマナーが悪く壊されてしまう。

(宮田委員長)

- ・総合学習では、安全に暮らすという面から考えて、今ある自然を見て、それが将来どうなるのか考えるような仕組みになっているのか。

(寺田委員)

- ・現在の総合学習では、そこまで子どもたちが考えるようにはなっていない。
- ・また、歴史や自然がどれだけ大切なものかということを紹介する人を通して、子どもたちに伝わるのが大切だと思う。

(宮田委員長)

- ・安全について危険な要素を考えることも必要で、見て考える習慣を身に付けることが望まれる。その意味では、他とは違う要素を取り入れてみたいと思う。

(古市委員)

- ・芦屋は、多くの断層の存在によって非常に険しい地形であることも紹介したい。

(岩本委員)

- ・ナウマン象の化石が何故、あのような高い場所で発見されたのかも興味深い。

(宮田委員長)

- ・ナウマン象の化石については、造山活動による隆起によるものだが、化石と断層などの結びつきを知ること大事だと思う。

<閉会挨拶>

(後藤事務所長)

- ・今回頂いた貴重な情報を 1 つずつ紐解きながら充実した内容にしていきたいと思う。